

情報漏洩に堅牢な認証およびその応用

古原 和邦、齊藤 匡人、辛 星漢

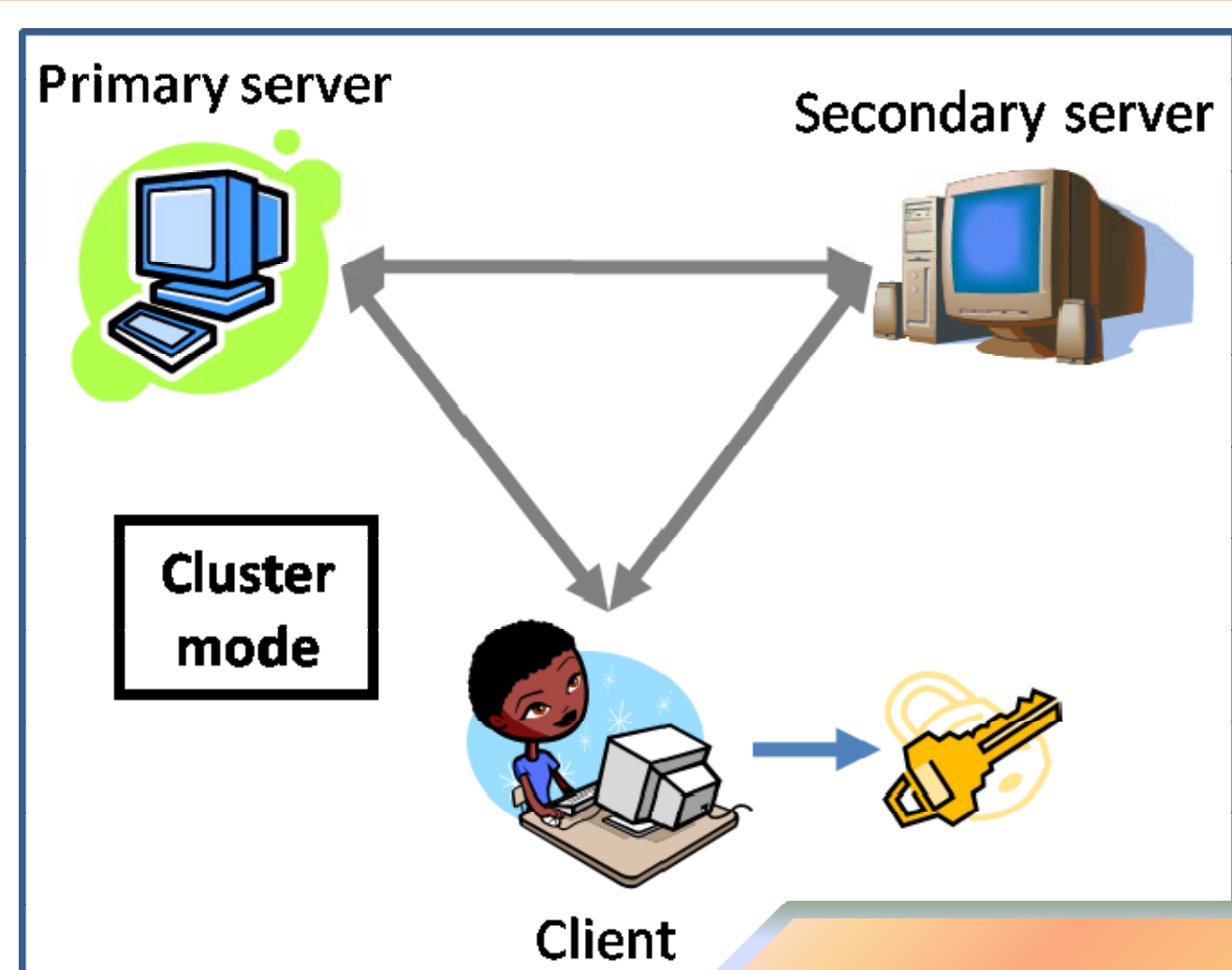
従来認証方式の問題点

- 情報漏洩で安全性が崩れてしまうケースが多い
- 情報漏洩の事件は後を絶たない
- ユーザの不注意(紛失・盗難)、管理者の不正行為、ウイルスなど



新たな認証付きデータ管理システム

- 記録情報の漏洩に耐性を持たせた認証方式
- 計算量と通信量においてよりよい効率性を達成
- オンラインで安全にデータ鍵の復元が可能
- 漏洩された情報の自動無効化機能
- 攻撃者のオンラインパスワード攻撃を検知
- ユーザが覚える情報は短いパスワード一つ
- 公開鍵証明書管理は不要
- 強前方秘匿性(将来公開鍵暗号が完全に解かれたとしても、過去の通信を復号できない)



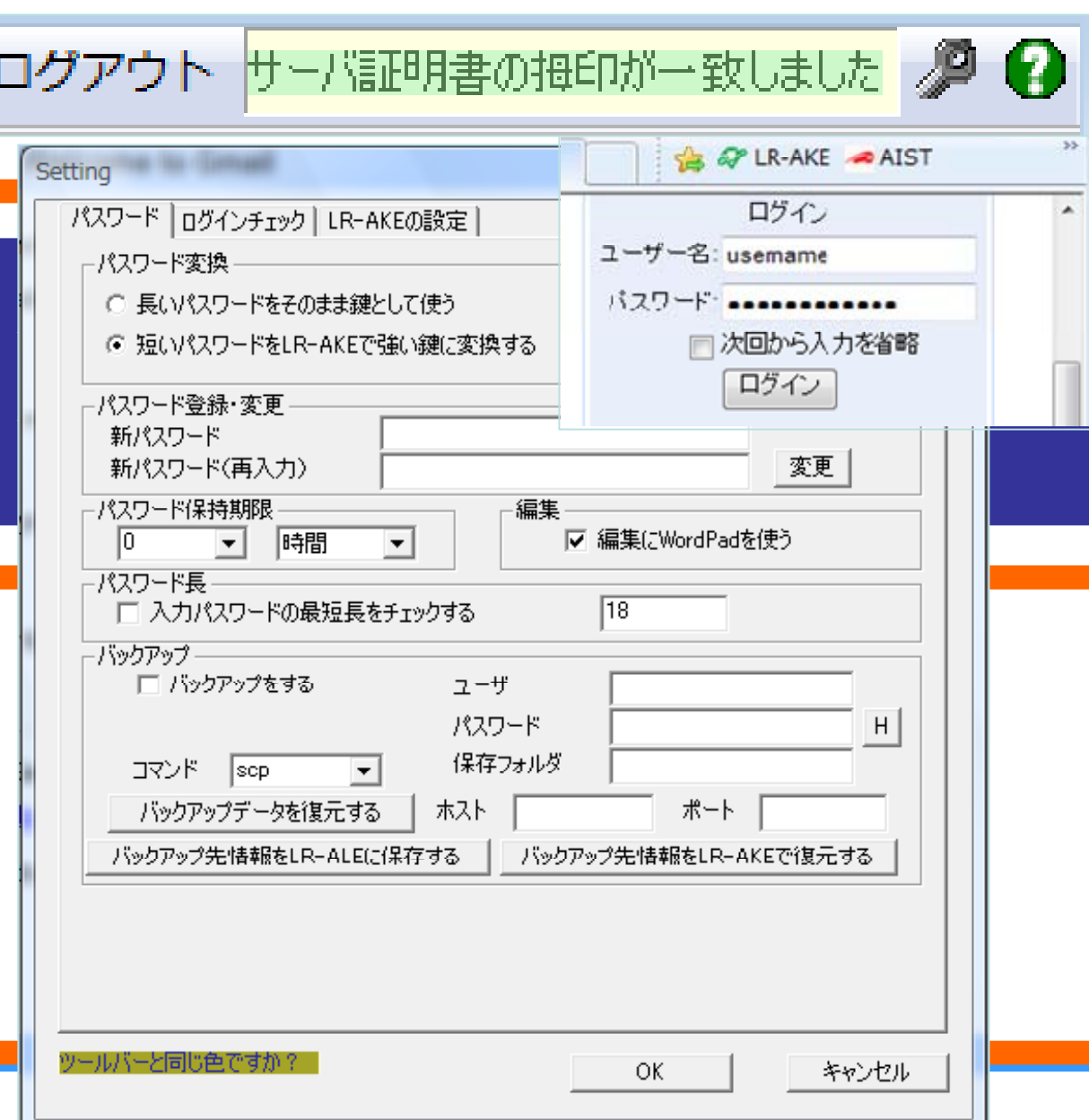
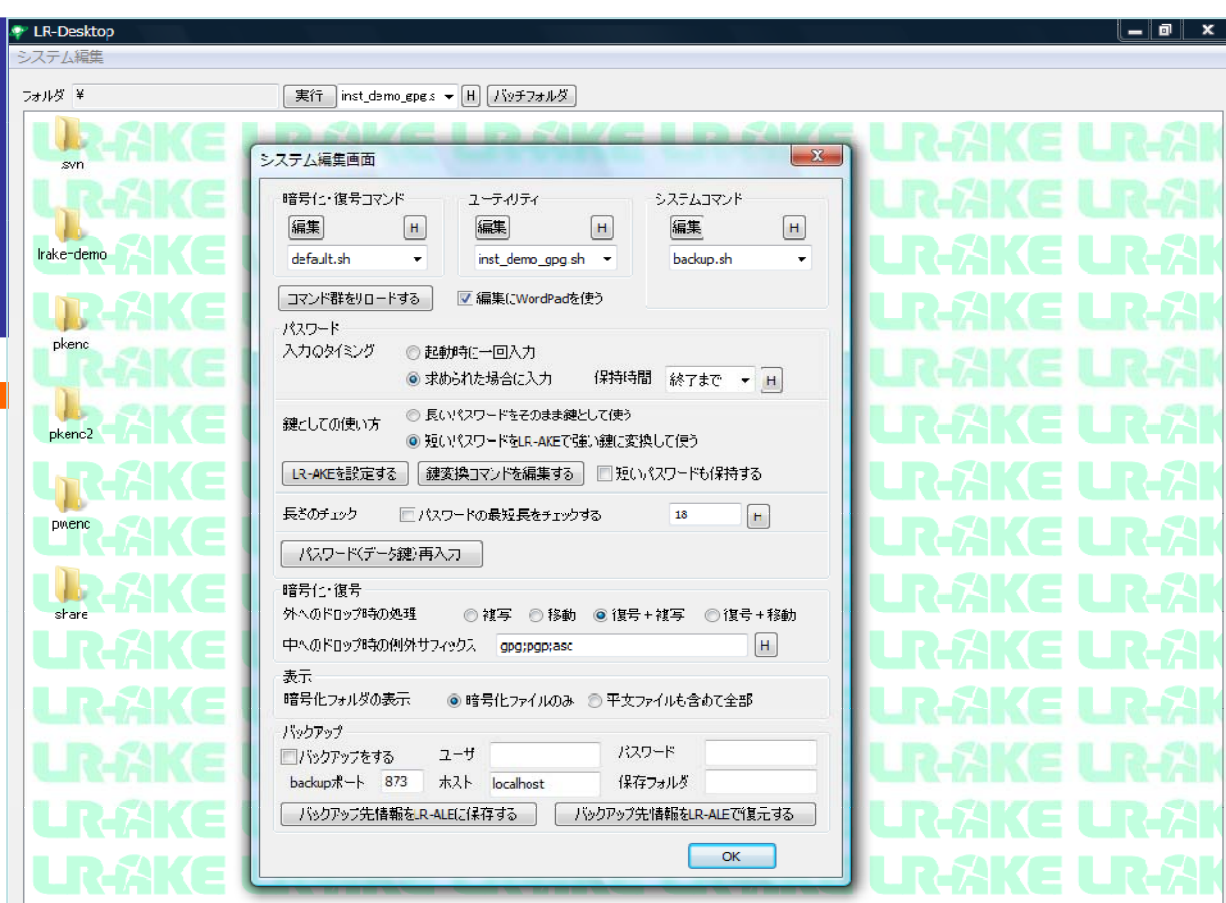
アベイラビリティ

応用分野

- 認証あるいはデータの保存を必要とするあらゆるサービス
- 例) ウェブメール、ウェブショッピング、インターネットバンキング、VPNなど
- クライアント側のシングルサインオン
- クラウドストレージシステムなど

デモ

- LR-LoginChecker
- LR-Desktop
- LR-SSH





情報漏洩に堅牢な認証 およびその応用

古原 和邦、齊藤 匡人、辛 星漢

セキュリティ基盤技術研究チーム

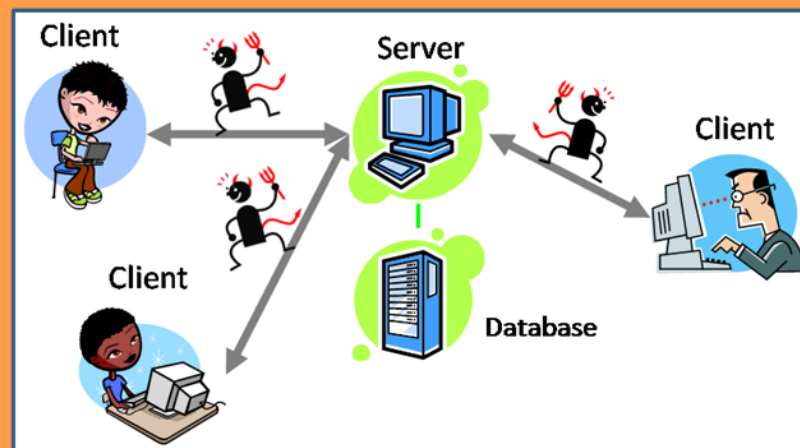
従来認証方式の問題点

- 従来の認証方式は主にネットワーク攻撃者を想定した設計



- 情報漏洩で安全性が崩れてしまうケースが多い
 - 認証情報＝アクセス権限
- 情報漏洩の事件は後を絶たない
 - ユーザの不注意、管理者の不正行為、ウイルスなど
 - 特に、紛失・置き忘れ・盗難が30.2%を占めている

(参考)「2008年上半期情報漏えいインシデント報告書(速報版Ver.1.1)」日本セキュリティ協会(2009.2.20改訂)



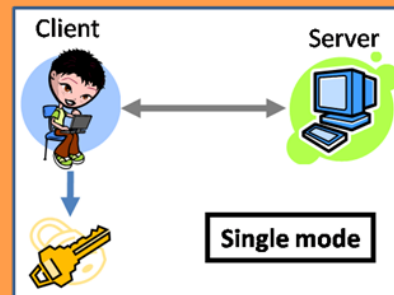
新たな認証付きデータ管理システム

記録情報の漏洩に耐性を持たせた認証方式

- RCIS独自の技術
- RSA/DLベース方式

よりよい効率性を達成

- 計算量・通信量



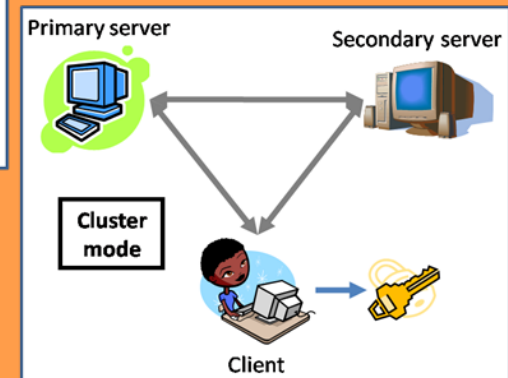
オンラインで安全にデータ鍵の復元が可能

- 漏洩情報の自動無効化機能
- 攻撃者のオンラインパスワード攻撃を検知

強前方秘匿性

- 将来公開鍵暗号が完全に解かれたとしても、過去の通信内容を秘匿できる(但し、情報が漏洩しない場合)

公開鍵証明書は不要



アベイラビリティ

従来方式との比較

(OK: 耐性あり、NO: 耐性なし)

記録された情報の漏洩

認証方式	通信 路盗聴	並列オ ンライン 攻撃	クライアン トから情 報漏洩	サーバか ら情報漏 洩	時間差で 両方から 漏洩	フィッシ ング攻 撃	パス ワード 数
CHAPなど	NO	NO	OK	NO	NO	OK	複数
PAKE	OK	NO	OK	NO	NO	OK	複数
PKI(サーバPK認 証+PW)	OK	NO	OK	NO	NO	NO	複数
PKI(サーバPK認 証+PW+Token)	OK	OK	OK	NO	NO	NO	複数
PKI(相互認証)	OK	OK	NO	OK	NO	NO	一つ
LR-AKE	OK	OK	OK	OK	OK	OK	一つ

クライアントから情報が漏洩しない限り、攻撃者は直列オンライン攻撃すらできない

応用分野・デモ

- 認証あるいはデータの保存を必要とするあらゆるサービス
 - ウェブメール、ウェブショッピング、インターネットバンキング、VPNなど
 - ID連携、シンクライアント用認証など
 - クライアント側のシングルサインオンなど
 - クラウドストレージシステム、NASなど
- デモ(記録情報の漏洩に強いツール)
 - LR-LoginChecker
 - IDとパスワードを管理
 - LR-Desktop
 - データの暗号化・復号
 - LR-SSH
 - 安全性を強化したSSH

